

第4学年 国語科学習指導案

大阪市立清水小学校
指導者 倉原 美雪

1. 日 時 令和7（2025）年10月10日（金）第5校時（13:20～14:05）
2. 学年・組 4年1組 計36名
3. 場 所 4年1組教室
4. 単 元 名 表し方のくふうを考えよう
「広告を読み比べよう」
5. 目 標

○2つの広告を読み比べて表し方の工夫を読み取り、なぜ違いがあるのかを考えることができる。

- ・ 比較や分類の仕方を理解し、使うことができている。（知識・理解）
- ・ 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（思考・判断・表現）
- ・ 「読むこと」において、文章を読み比べて理解したに基づいて、感想や考えをもつている。（思考・判断・表現）
- ・ 進んで読み比べて表し方の工夫を読み取り、学習の見通しをもつて広告の違いを考えようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

○目的に応じて情報を集め、調べたことを記録したり、他の友だちとの交流を踏まえ自分の考えと比較したりして、整理している。

6. 指導にあたって

（1）児童観

本学級の児童は、何事にも意欲的に取り組む児童が多い。一方で、わからないことがあると、取り組むことをあきらめたり、なかなか取り掛かることができなかつたりする児童も一定数いる。また、学習の理解に時間が掛かり、定着が難しい児童が多い。特に、長い文章を読むことに対して苦手意識が高く、文章を全部読まずにおおよその部分で答えてしまったり、文章の量を見て読むのを途中でやめてしまったりする姿を見ることが多い。そのため、基礎的な用語や文章構成の学習を継続して取り組んできた。対話的な活動に関しては、自分の考えを少しずつ伝えたり、友だちの意見と自分の意見の似ているところを見つけたり、違う意見を知ることで考えを深めたりすることができるようになってきた。しかし、自分の考えを積極的に伝えられる児童と自分の考えをうまく言葉に表せずに受け身になってしまふ児童の差が大きいように感じる。

国語科のアンケート（資料①）では、「疑問に思ったことを解決したり、新しい知識を得たりするために辞書で調べる」という項目に77%の児童が肯定的に回答している。このことから、わからないことがあると好奇心をもつて「調べよう」や「知りたい」という気持ちが強いことがわかる。疑問に感じたことに対して、学習の中でも辞書や、タブレットを使い調べ学習の時間を多く設けるようにしてきた。一方で「自分の意見や考え、経験したことなどを文章に表すことが好きだ」という項目に33%の児童が否定的に回答している。このことから、調べることに対しては意欲的であるが、文章で表すことに関しては苦手意識のある児童が多いことがわかる。普段の学習の様子を見ていると、考えを言葉にすることや、文章を書くこと、文章量が多くなると書くことを苦手に感じる児童が多い。

ICTに関するアンケート（資料②）では「パソコンを使った授業は楽しい」という項目に97%の児童が肯定的に答えており、多くの児童が楽しく取り組めていることがわかった。文字入力の基礎となるタイピングは、「らっこたん」を中心に取り組んでいる。まだキーボードやローマ字を確認しながら打つ児童もいるが、フリック入力や手書き入力など自分がやりやすい方法を使って少しずつ入力できるようになってきた。1学期はSKYMENU Cloudの発表ノートを中心に学習者用端末を活用してきた。社会科の都道府県の学習では、自分が選んだ都道府県について、特産品や観光地、ご当地キャラクターなどいくつかの項目から紹介したいものを選び発表ノートにまとめる学習を行つ

た。同じ都道府県を調べている友だちと協力しながら、調べるキーワードや資料の探し方などを伝え合い、まとめることができた。色遣いや文字の大きさなどの工夫もクラスの友だちに発表するときにどのようにしたら見やすいかなどを話し合いながら作ることができていた。文章を書くことに苦手意識をもつ児童も友だちと話し合いながら意欲的に取り組んでいる姿が見られ、まとめ方の一つとしてICTの活用が有効的であると感じた。発表ノートのほか、「Yahoo!きっず」やお気に入りに登録したサイトをもとに調べ学習をしている。また、図画工作科では、鑑賞した絵を思考ツールの座標軸を使って分類したり、友だちの作品を鑑賞した後に鑑賞カードにまとめたりした。そのほか、算数科では「1けたでわるわり算のひつ算」で、束になっている色紙を実際に動かし、計算の仕方を考えるツールとして活用した。

(2) 教材観

本教材は、広告がどのような目的や意図で作られているのか、どのように広告と向き合うのがよいかという説明の文章から始まる。そのうえで、二つの広告の読み取りに進んでいく。「広告」は店や駅または、インターネットを利用しているときなど日常的に目にしている。しかし、何気なく見ていたりが何が書かれているか、どのようなことを伝えたい広告なのかと意識してみることはほとんどない。ここでは、体温計についての広告として家族のために使いやすいことをアピールした広告と、子どもの緊急時に使いやすいことをアピールした広告の二種類が提示されている。同じ商品であるがそれぞれの広告に書かれている事柄や言葉、使われている写真は明確に異なり、児童が作り手の意図や目的をとらえていくのに適した教材である。

児童はこれまでに、3年「給食だよりを読みくらべよう」で二つの文章を読み比べ、それぞれの説明の仕方の違いや工夫を読み取ることを学習してきている。それらの経験を踏まえて、児童にとって身近で生活に即した広告を取り上げ、同じ商品について作られた二つの広告を読み比べることで、それぞれの広告の表し方の違いとその効果について考え、広告の作り手の意図や目的を読み取る力を身につけていく。

本教材のまとめとして、書く活動を設定している。表し方の工夫を取り入れた広告作りを行うことで、伝えたいことを短い文や言葉でまとめる力を身に付けられるようにしたい。

また、本単元は、説明文の「読み比べる」の系統に位置づけられている。実生活に役立つ様々な種類の文章に触れることで言葉の力を身につけることができると考える。

(3) 指導観

本単元の学習では、児童にとって身近である広告を取り上げ、同じ商品について作られた二つの広告を読み比べることから、それぞれの広告の表し方の違いとその効果について考える。広告の作り手の意図や目的を読み取る力を身につけ、様々な広告を読むときに作り手の意図を考えたり、自分が広告を作ったりするときに生かせるようにしたい。単元の最後には広告作りを行う。アンケートの結果からも児童はパソコンを使った学習にとても意欲的に取り組んでいる。そのため、書くことに苦手意識がある児童が少しでも意欲的に取り組めるよう、発表ノートを活用した広告作りを設定した。表し方を工夫して書き進めていく際にも、書くことに苦手意識がある児童は、自分の考えを書き進めることが難しいと予想される。そのため、ペアで話し合ったり聞き合ったりする時間を設け、様々な工夫を見つけ、友だちの書き方やまとめ方の良いところを取り入れていけるようにする。また、文章や写真を使ってまとめていくときに「何を誰に向けて書くのか」を明確にして書き進めていくように、書く項目を視覚化して提示したり、資料選びのポイントを抑えたりするなど手立てが必要になると考える。様々な広告を比較したことをもとに、ポイントを意識して自分が伝えたい相手により思いがより伝わるような広告作りに取り組んでいく。

第1時では、身の回りにある広告について話し合う。「キャッチコピー」「デザイン」などの言葉の意味を押さえた後に、実際にどんな広告が身の回りにあるのかを考え、広告には目的があり、作り手の意図に合わせた表し方の工夫があることを学習する。広告がどのように作られているのかを捉えた後、広告の読み比べを通して作り手の意図を読み取っていき、最後には学んだことを生かして広告作りをすることを伝え、学習の見通しがもてるようになる。

第2・3時では、二つの広告の違いを読み比べて表し方の違いを読み取っていく。教科書に同じ体温計についての二つの広告がある。二つの広告に書かれている事柄は何かを考え、項目を立てて表にまとめていく。広告には目的があり、作り手の意図が込められていることを確認した後、まとめた表から同じ項目に書かれている二つの違いを読み取り、なぜ書かれている内容や写真が違うの

かなどを話し合うことから作り手の意図を読み取ることができるようになる。どんな意図をもってその言葉や、写真を選んだか、順番を入れ替えることでどんな効果があるのかということを班で話し合い、それぞれの広告は誰を対象にして作っているのか何を伝えたいのかをまとめ、整理できるようになる。

第4時では、広告全体から受ける二つの印象のちがいについて考えていく。広告①は高齢者も含めた家族全員で使うことを考えている人向け、広告②は子どもに使うことを中心に考えている親向けであるということを振り返り、それぞれから受ける印象をまとめていく。前時では、項目ごとに書かれている違いを中心に見ていたが、写真に写っている人の表情や大きく写している意図、全体の広告の色がもたらすイメージからグループで話し合い、ワークシートにまとめていくようになる。

第5時では、身の回りの広告から表し方の工夫を見つけて、作り手の意図を考えていく。数種類の広告からグループで2種類を選び、それぞれの広告から作り手の意図を読み取ることができるようになる。書かれている項目、写真、書かれている順序、色合いなど既習事項を使い考えていけるように声かけをしていく。SKYMENU Cloudの発表ノートを使い、自分たちが選んだ広告に気づいたことをメモや印で残し、それをもとに話し合い、ワークシートにまとめる。

第6時(本時)では、今までに学んだ広告の表し方の工夫を生かして、自分たちの身の回りにある「防犯ブザー」「水筒」「筆箱」の中から一つ選び、広告作りをペアでSKYMENU Cloudの発表ノートで行う。「だれに」「なにを一番伝えたいか」を明確にして、表し方のポイント(キャッチコピー・写真・特徴)を意識して取り組んでいく。キャッチコピーや物の特徴、なぜその対象者に向けて作ったのかなどをメモに書き、広告作りや、友だちの広告と見比べるときの交流に使えるようにする。文字の周りには資料箱にあるスタンプなどを使い表現の工夫を行えるようになる。大人を対象とする広告を作る際には事前に家族等に聞いた買う時のポイント等のインタビューをもとに製作していく。活動途中に自分が選んだものと同じものを選んだ友だちのところに行き、見比べる時間を作る。交流の中で、対象者が違う場合は表し方の違い、同じ場合にはより良い表現のしかたをみつけて自分たちの広告作りに生かしていくようになる。

第7時では、前時に作った広告作りの仕上げを行う。読み比べたときに見つけた表現の仕方の良いところを取り入れながらより自分が表現したい広告に近づけるように仕上げていく。広告ができた児童は大型テレビに映し、広告作りの表し方の工夫を発表する。製作途中の児童は発表も参考にしながら広告作りの仕上げを行う。

第8時では、それぞれが作った広告から作り手の表現の工夫や伝えたいことを読み取り、広告全体から感じた印象をワークシートにまとめていく。

(4) ICTの活用について

授業の場所	<input checked="" type="checkbox"/> 普通教室 <input type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他()
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他()
ICT活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考え方をまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考え方の比較・交流 <input checked="" type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考え方を表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成 <input type="checkbox"/> 持ち帰り <input type="checkbox"/> オンライン接続
活用機器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用端末 <input checked="" type="checkbox"/> 学習者用端末 <input checked="" type="checkbox"/> その他(大型テレビ)
活用コンテンツ	・SKYMENU Cloud 発表ノート
ICT活用のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 他者の考え方をすぐに共有することができる。 SKYMENU Cloud「発表ノート」を活用し、話し合いの際に自分が読み取った「作り手の表し方のくふう」をメモで貼ったり、印をつけたりすることを隨時行うことができ、視覚的にわかりやすい。 友だちとの交流の後に、広告を書き換えたり、付け加えたりしやすい。

7. 指導計画（全8時間）

時	主な学習活動	個別最適な学び 協働的な学び
1	身の回りの広告を見て感じたことを話し合う。	協
2	二つの広告を読み比べて、違いを見つける。	個・協
3	二つの広告の違いから広告の作り手の意図や目的を考える。	個・協
4	二つの広告の全体のデザインから受ける印象の違いをまとめる。	個・協
5	身の回りの広告から表し方の工夫を見つけて作り手の意図や目的を考える。	個・協
⑥	ペアで選んだ物の広告を作る。	個・協
7	ペアで広告作りの仕上げを行う。	個・協
8	作った広告を読み合う。	協

8. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比較や分類の仕方を理解し使うことができている。	「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 「読むこと」において、文章を読み比べて理解したことに基づいて、感想や考えを持っている。	進んで読み比べて表し方の工夫を読み取り、学習の見通しをもって広告の違いを考えようとしている。
調べたことを記録したり、必要な情報を集めたりすることができている。	他の友だちとの交流を踏まえて、自分の考えと比較することができている。	情報の活用を振り返り、改善点を見いだそうとしている。

9. 本時の学習 (本時 6 / 8)

(1) 目標

- 広告の表し方のポイントを意識して広告を作ることができる。
- 他の友だちとの交流を踏まえて、自分の考えと比較することができている。

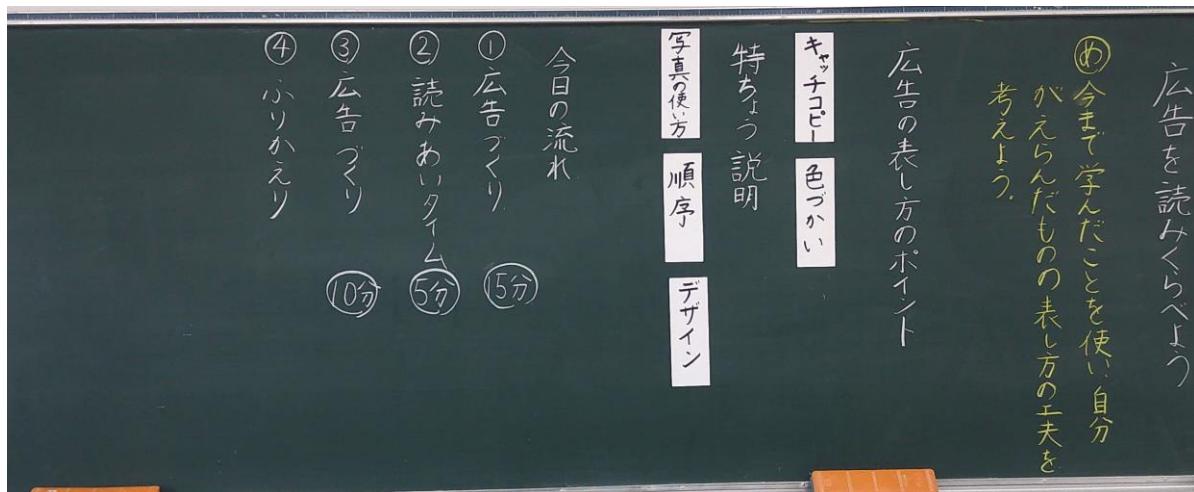
(2) 本時の展開

主な学習活動	指導上の留意点	☆ICT活用の留意点 使用機器・コンテンツ	評価の観点
1. これまでの学習を振り返る。 ○ 広告の表し方のポイントを確認する。 • キャッチコピー • 商品名 • 写真の使い方 • 商品の特長説明 • 事柄の順序 • 色遣い • 広告全体のデザイン	• 広告の中に必ず入れることや、広告の表し方のポイントをおさえる。		
2. 本時の学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。			
	(め) 今までに学んだことを使い、自分がえらんだものの表し方の工夫を考えよう。		
○ ペアで取り組む課題 ○ 本時の流れ(時程) 時間配分の確認	• 取り組む課題を確認し、本時の流れを確認する。	☆大型テレビの見本を見ることで広告作りの完成イメージをもち、制作できるようになる。 • 広告の見本 (大型テレビ)	
3. 広告を作る。 ○ 広告の表し方の工夫のポイントを確認しながら作成する。 (SKYMENU Cloud 発表ノート) • グループワーク • 作成・交流メモ	• 誰に・何を伝えたいか・どんな順番で伝えるかを考えながら作成できるように声かけを行う。 • メモには、広告の表し方のポイントを基にした自分の書きたいこと、対象者、どんなことを広告で伝えたいかを書き、広告作りや、交流の中で活かせるようにする。	☆発表ノートのグループワーク機能を使い、ペアで話し合いながら役割分担をして広告作りが進められるようにする。 • 学習者用端末 (発表ノート)	• 比較や分類の仕方を理解し使うことができている。 (知・技)



	<ul style="list-style-type: none"> なかなか進まない児童には、同じものを選んだ友だちに聞くなどして、一緒に取り組めるように声をかける。 		
4. 同じ物の広告を作っているペアで見せ合い読み比べる。 <ul style="list-style-type: none"> それぞれの広告から見つけた表し方の工夫を伝え合う。  見せ合った後に、自分たちが広告で伝えたい対象を伝えて、より伝わりやすくするポイントを伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの広告を見て、表し方の工夫を見つけるように声をかける。 伝えたいことが明確な広告を作ることができるように、表し方の工夫のポイントにあわせて意見を伝え合うように促す。 	☆友だちの作った広告と読み比べ、よいと思った表現の方法を自分たちの広告作りに随時取り入れていくようする。 <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末(発表ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読み、理解したことに基づいて、感想や考えをもつている。(思・判・表)
5. 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返りをする。(振り返りシート) 	<ul style="list-style-type: none"> 次時の学習につなげられるように表し方の工夫について確認するようにする。 	☆自分たちが作った広告から表し方のポイントの工夫ができたところについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 学習者用端末(発表ノート) 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の活用を振り返り、改善点を見いだそうとしている。

(3) 板書



(4) 資料

① 国語科に関するアンケート

(%)

	思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	思わない
1、物語を読むことが好きだ。	56	24	10	10
2、自分の意見や考え、経験したことなどを文章に表すことが好きだ。	37	30	27	6
3、自分の考えを発表することが好きだ。	40	30	20	10
4、友だちの考えを聞くことが好きだ。	40	30	20	10
5、疑問に思ったことを解決したり、新しい知識を得たりするためには辞書を使って調べている。	43	34	13	10

② ICTに関するアンケート

(%)

	思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	思わない
1、パソコンを使った授業は楽しい。	87	10	3	0
2、パソコンを使った授業はわかりやすい。	57	43	0	0
3、パソコンを授業でもっと使いたい。	74	23	3	0
4、キーボードや手書き入力などを使って文字を打ちこむことができる。	68	23	6	3
5、資料箱にある資料を使うことができる。	77	17	0	6
6、ノートを先生に提出することができる。	81	13	6	0
7、先生に提出した友だちのノートを見ることができる。	81	16	3	0
8、グループワークに参加することができる。	94	6	0	0
9、ノートに名前をつけることができる。	48	27	19	6
10、チームズに保存されたデータを開くことができる。	81	13	6	0
11、チームズから指定されたリンクに接続することができる。	61	33	6	0
12、パソコンを活用した学習のよい点はどこですか。（記述式、複数回答可） わかりやすいところ、発表ノートがまとめやすい、楽しいところ、調べやすいところ				

10. 成果と課題

(成果)

- ・ 学習者用端末を使うことで書くことに苦手意識がある児童も最後まで意欲的に取り組めた。また何度も書き直すことができ、友だちの広告を参考にしながら作成することができていた。
- ・ 見本の広告を参考にしながらレイアウトを確認し、キャッチコピーや商品の説明の順序などについて話し合いながら作業ができていた。
- ・ ペアで役割分担をし、一つの広告を作ることで困っている児童も相談しながら取り組むことができていた。
- ・ 事前に決めていたテーマにあった資料から必要な情報を取捨選択し、広告作りをすることができていた。
- ・ 資料箱にあるスタンプを使い、読み手に読んでほしい部分を強調したり、どの部分の説明をしているのかをわかりやすくしたりして表すことができた。



[防犯ブザー広告]

[水筒広告]

[筆箱広告]



(課題)

- ・ 操作に慣れている児童も多くいたが、よりスムーズに作成するために操作についての説明の掲示があればよかつた。
- ・ 広告を見やすくするための工夫(色遣い・文字の大きさ・スタンプ等)をしている作品を全体に紹介すれば、よりよい広告作りができた。
- ・ ライブ提出箱で互いの広告をいつでも見比べられるようにすれば、対話が活発になり学びがさらに深まった。